

生命の尊厳と地球環境蘇生運動に向けて
STSプロジェクト東京支局たより

ハーモニー ウェーブ
Harmony Wave

Vol.33 2017年10月

発刊元: (株)エステーエスプロジェクト 東京支局
〒108-0023 東京都港区芝浦2丁目17-10 新大友ビル6F
TEL:03-6435-3428 FAX:03-6435-3429
ホームページ: <http://www.stspro.com/>



9月3日東京セミナー 半田代表講演

「HWは見えないエネルギーの受け皿」

雨が半月も続いた天候不順の8月が明け、清々しい青空に恵まれた当日は、全国から150名もの参加者で賑わいました。



● エネルギーは外から

宇宙は形の無い世界。情報とエネルギーがN極とS極の対になり、その粒が回転し物質化現象が起きる。地球上では水がその受け皿であり、条件が整うと、生態系の中で必要なものはその場で発生するようになる。この条件を満たした水がハーモニーウォーター

(HW)である。

例えば田んぼの水がそうになると、稲と微生物にとって肥料分が足りなければ、大気の窒素が固定される。

HWをつくる蘇生器は、N極とS極の41種類の元素のセラミックスに、水が下から上がり(左回転・N極)、また上から下がる(右回転・S極)。こうして、HWはN極とS極をもった磁場となり、膨大な宇宙エネルギーが干渉する。生命は動き、老廃物は押し出される。無駄なことはせず、外からのエネルギーをいかに取り込むかが重要。

● 雨

海からの水蒸気が風に乗って山に当たると、風が上へ向かう。上方の水は左回転してN極となる。下へ向かう水は右回転でS極となる。NとSの水が結合して雨の粒となり、宇宙から押し出されて降ってくる。ニュートン力

学でいうように下から引っ張られるのではない。

● 飛行機

飛行機が飛ぶのは、浮力や揚力ではない。機体に当たった風は、その後の方向で左回転(N極)と右回転(S極)に分かれ、飛行機自体が磁場となる。そこに干渉する押し出すエネルギーと、反発する(反重力の)エネルギーとのバランスで浮いていく。

● 反重力の科学

HWを飲むと体が軽くなるのも反重力による。反重力は、酸化でなく還元。蘇生器を通った水が、入る前よりも水圧が上がるのは、左回転と共鳴する反重力によって重力の抵抗が減り、そこに宇宙からの押し出すエネルギーが干渉するため。

タイヤに応用すると、タイヤの中の遠心力で内壁にぶつかった元素は、はね返ると逆に向心力を持つ。外向きと内向きの両方のエネルギーがあると磁場が発生する。これが回転すると反重力のエネルギーが干渉し、タイヤの摩擦や重力の抵抗が減る。

この理論でタイヤや車や道路を作ると、同じ燃料とエンジンのままで2倍も3倍も走り、少ない量を大きく生かすことができる。空気の抵抗が変わり、向かい風が追い風のようになる。このような科学を身に付けないと21世紀の地球は生きていけない。

● 水で環境が決まる

地球は常に膨張していて、陸地も地震も膨張で生じている。しかし、膨張しすぎると破裂してしまう。これを抑制し、熱を下げて安定させているのが、大気の78%を占める窒素と、水である。宇宙の森羅万象の中で、水がどういう役割をしているか位置づけ、今の科学でどう作り変えるかが大事。

日本人の2人に1人はガンという現状。室内の植物を外へ出せば、強酸性の雨やPM2.5によって枯れていく。こういう環境で、みなさん子どもも暮らしている。HWが家庭から海や川へ流れて全体の8%になると、地球の水の在り方が変わる。海水温の上昇が止まり、異常気象も無くなって本来の生態系が戻ってくる。

《農業対談》

セミナー後半は、秋田県農業者の渡辺勲さん、高橋満さん、半田代表の対談を行いました。低分子のHWは水はけや栄養吸収がよく、水素も酸素もミネラルも豊富なため微生物のバランスを調えます。それにより、様々な驚きの結果へとつながっています。



たかはしみつる
高橋満さん

わたなべいさお
渡辺勲さん

はんだかずのりだいひょう
半田和憲代表

● 渡辺勲さん 「大雨に負けないスイカ」

ウリ科の植物は水に弱い。スイカ畑が雨に浸ると一晩でやられ、バーンバーンと音をたてて実が破裂し大損害になる。育てるのも博打だ。今年秋田も大雨に見舞われ、スイカ畑を見に行くのが怖かった。ところがスイカ

は一個も爆発していないどころか、花まで咲いていきいきしている。他のスイカ産地はだめになったそうだが、HWを撒いていたお蔭だ。

「放線菌で真っ白」

畑には有機物を混ぜた後に透明のマルチ(ビニールの覆い)をしているが、その下には真っ白に放線菌が繁殖してびっぴくりした。放線菌は天然の抗生物質であり、消毒をせずともよいスイカができた。HWで水はけがよくなり土は畝に盛らずに平たいまま。いまだにスイカが実っている(9/3現在)。

定期的にHWを撒くことで菌のバランスが整い、病気が出ない、枯れない、消毒の必要がない。大雨などの災害の際はHWを撒いている効果がすごく分かる。

「稲をのびのびと育てる」

今年の稲は、肥料を今まで40kg入れていたのを、4分

の1の10kgに減らした。収穫量を望むなら、足りない量である。しかし収穫量は減らずに増えている。また、通常は一坪あたり70〜80株植えるが、それを30株にした。スカスカで、間を生き物が走り回れる。

肥料の量も株数もこれまでの農業では考えられないほど少ない。しかし稲は倒れるほどに実り、それでも病気がつかず綺麗である。

生育中の田んぼには水を張りつつけている。周りは夏に水抜きするため、隣の人がらぬかるんで困るという声もあつた。しかし稲の結果をみんな見ているからか、今年周りの田んぼすべてが水を張りっぱなしにしていた。

● 高橋満さん 「毎日HWを撒く」

横手市にあるぶどう農家さんは、スプリンクラーを上につけて、毎日HWを撒いている。α39とヨーグルトの液をSS(スプレーヤー)で毎週散布。ハウスのビニールには半導体塗料添加剤の希釈液を二週間に一度スプレー。一週間〜10日早く育ち、粒が大きい。登熟がすすみ、糖度が上がってきている。

「畑の土が団粒化」

アスバラ農家さんは、HWによつて土が団粒化し、雨が溜まらずすぐに抜けて助かっている。茎枯れ病が出たときは、ABRM AXで対応。

● 半田代表より

「疎植した稲の勢い」

どじょうの養殖をしている遠藤さんの、田んぼの状態。HWによつて、今までに入ってきた肥料が効いてきている。1坪あたり30株の疎植(密植の反対)を目標に田植え機を改造した。(実際は47株程度となった。)その中でも、特に疎らになった所の稲の状態がさらによい。

「豚の臭い」

遠藤さんは豚の放し飼いやも行なっている。飲み水と餌にHWを使うことで、臭いが無い。以前、長野県で養豚場の悪臭が大問題となったときは、HWの霧を散布し一週間で解決した事例がある。

動植物をのびのびと育てながら、環境を蘇生し、安全な食物を確保できる、STSバイオオクオーク農法。家庭菜園にもぜひ活用していきましよう。

2017年10月～12月 セミナー日程 (13:30～16:00)

10/ 1 (日)	大分セミナー	ビーコンプラザ3F国際会議室
10/15 (日)	秋田セミナー	STS秋田本社2F
11/ 5 (日)	名古屋セミナー	AP名古屋名駅8F B+C
11/26 (日)	高知セミナー	高知新聞放送会館7F
12/24 (日)	福岡セミナー	福岡国際会議場4F

- 支局では、ハーモニーウォーターのお試し水汲み、学習会を行っています。日時詳細や内容はメールでお知らせしています。
- メール登録、メンテナンスの相談は支局へお問い合わせください。

〔編集後記〕

水は宇宙からの見えないエネルギーを地球で生きるための形にする。この視点で見つめ直すと、雨粒が何とも貴く思えてくる。HWの雨を目指して、環境蘇生運動を広げていこう。



【紫式部の実】